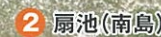
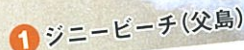


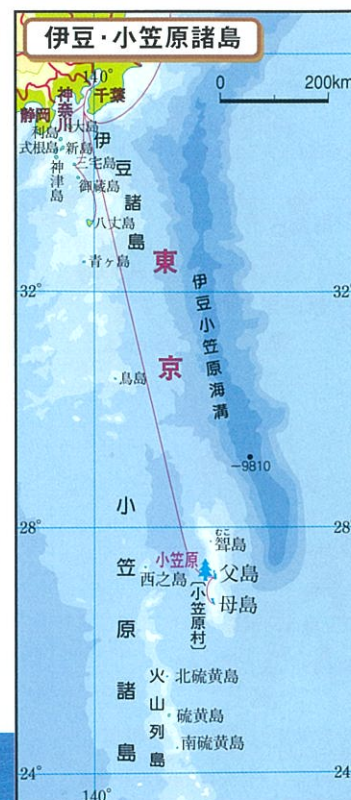
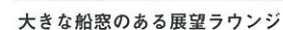
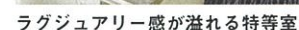
東京から約1,000km南、太平洋上に浮かぶおよそ30の島々で形成される小笠原諸島は、2011年に世界自然遺産に登録された。諸島の形成以来、一度も他の大陸や列島と陸続きになったことがなく、島の動植物は、「東洋のガラパゴス」とも呼ばれる貴重な生態系をつくり上げた。



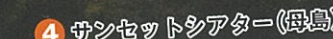
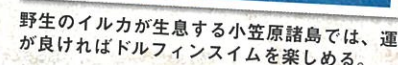
「おがさわら丸」

「おがさわら丸」

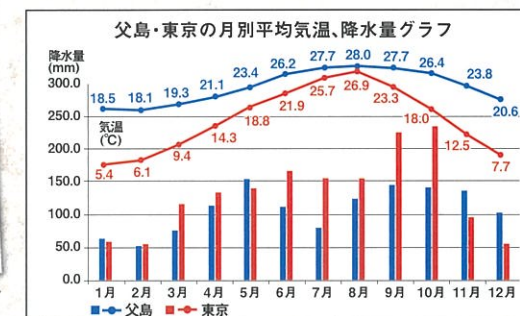
小笠原諸島への交通手段は、木芝桟橋(東京都港区)から出港する「おがさわら丸」が唯一定期航路で、所要時間は約24時間になる。船室の等級は6段階。専用バス・トイレ付きの最高グレードの特等室はプライベートな空間を確保できる。船内にレストランや展望ラウンジ、シャワールーム、バリアフリートイレも完備されている。



父島・母島は沖縄本島とほぼ同緯度（北緯26度）にあり、亜熱帯気候に属する。冬は温暖である。年間を通してマリンスポーツが楽しめる。



母島を代表する夕日のスポット。夕方、西の空はオレンジの光に彩られ、小高い丘から眺める夕日は絶景。



※1991～2020年30年間の平均値。出典：気象庁、気象統計情報



ガイドと一緒に森を歩いて、小笠原固有の動植物を観察するジャングルトレッキング。自然環境を守るため、外来種対策なども徹底している。



小笠原諸島は、さまざまな民族の影響を受け、独特の文化が形成されてきた。例えば、島の名物料理「ピーマカ」はハワイ語の「ピーミカ・酢」の転訛てんぎと言われている。また、小笠原の固有植物種である「ヤロード」は、西洋系の先住移民が英語で「yellow wood」と呼んでいたものを、聞いたまま言葉にしたのが語源という説もある。



7 境浦(父島)

島には第二次世界大戦中、日本軍が築いた防空壕や大砲など、戦争の跡が数多く残る。境浦(父島)には沈没した濱江丸ひんこうまるが放置され、観光スポットとなっている。

嵐山・嵯峨野

平安の昔から、その風光を愛でた大宮人の遊行の地。嵐山は清流と桜、紅葉。嵯峨野は竹林や深い木立に立つ古社寺が、訪れる人々を引きつける。

野際の花に、風の涼しさに、真紅の紅葉に、京都の風光はここに尽きるほど。



嵐山

保津川にかかる渡月橋を中心に、嵐電嵐山駅にかけて京風のおしゃれな店が続く。嵐山は『源氏物語』にも語られたように、貴族の別荘地として知られ、今でもその雰囲気はたどっている。



天龍寺の精進料理(左)と曹源池庭園(右)



嵯峨野

嵯峨野は風情豊かで、小倉山の麓にとけこむように、ひっそりと古刹がある。二尊院、野宮神社、祇王寺、落柿舎、直指庵、山裾の大沢池…、心にしみ入る風景。



奥嵯峨

嵯峨野の鳥居本は山峡で、愛宕山の山頂の愛宕神社への道にある。茅葺きの鮎料理や湯どうぶの平野屋があり、京の山裾の風情がいい。化野は悲しくも風葬の地であった。



嵐山散策

嵐山の代表的な名所をめぐるコース

渡月橋は平安時代の優美な姿である。天龍寺は世界文化遺産で、曹源池庭園は嵐山を借景とする見事なもの。野宮神社は竹林があり静寂さが素晴らしい。



嵯峨野 北への道

のどかな嵯峨野の北の山麓の大覚寺へのコース

清涼寺は『源氏物語』の光源氏のモデル・源融の山荘といわれる。御所のような雰囲気漂う大覚寺は、月と桜と嵯峨菊で知られる。大沢池の春は山桜が湖畔に咲き競う。



嵯峨野 西への道

嵯峨野の静かで小さな寺社をめぐるコース

常寂光寺は紅葉の名所。落柿舎で「柿ぬしやこすえは近きあらしやま」と去来は詠んだ。二尊院は小倉山の山麓にあり、樹木に包まれるような祇王寺はカエデと竹林が美しい。

